

ひとりから始めた環境浄化で、見事によみがえらせた早川 西浦海岸を三河湾有数のリゾートへ変えたEMの威力



環境浄化



2005年の愛知万博に向けて、河川浄化の実例を作ろうと始めた早川浄化は、自主自立の大人のボランティア活動として、悪臭が発生し、魚影も見えなかった早川が、約1年後には様変わりをしました。合言葉は「ワクワクできる環境浄化」です。



今日も一人で始める環境浄化に出発です。自宅の庭先はEM培養基地となっています。



三河湾浄化市民塾のメンバーである篠原さんが、一人で、EM活性液を運び、ホテルの浄化槽へ投入。それだけで、ホテルの前に広がるビーチはまるでリゾートのように変身。

【早川浄化活動】

岡崎市を流れる早川は、市街地化とともに、汚れと悪臭で住民から苦情が絶えなかった最悪の水質となっていました。2005年の愛知万博に三河湾浄化活動の参加が決まってから、EMによる浄化活動の事例を作ろうと、岡崎市内の川を選定しようとして、早川を選びました。高負荷な水質のため、水ワタも発生していました。スタート後半年には早川に清流が戻り、大量のシラハエが戻り、鯉や水鳥などが住民の目を楽しませてくれる川へと変身しました。

具体的な方法はきわめて簡単です。早川から少し離れた国道沿いにある丸源ラーメンの駐車場の一角を借りて、現地で2次活性液を1トン作成。放流すると雨水用水路を通して、早川へと流入します。実際その流入地点のから、水質が良いと発生する水草が生い茂り、小魚が遡上し、それをねらう水鳥も観察できるようになりました。この経緯は愛知万博の瀬戸会場のホールで発表しました。その後、現在も継続中です。

【西浦温泉での活動】

西浦温泉の前のビーチは一時は汚れて、臭いも出るような状況でした。10年ほど前より、EM活性液を有数なホテルである銀波荘の浄化槽に投入しています。浄化槽の排水が、浄化源に転換。約2000トン/週が三河湾内へと流入し、ホテルの前の砂浜はもちろん、近隣の浜辺も砂地がきれいになり、貝なども増えています。

証拠に、禁漁指定されていないと思っていた場所に、突然禁漁の札が貼られていました。あさりやしじみなども増えています。

活動主体

三河湾浄化市民塾 篠原正樹

自然にもっとも近い栽培方法で、美味しくて品質の良いぶどうを栽培し、来園していただく方に提供したい



左が2代目中根賢さん、右が中根伸宏さん

マルタ園の園地面積は2ヘクタール。来園者は約 10,000 人（年間）。来園者が多いピークは9月第1、第2、第3日曜日の巨峰狩のシーズンです。園内には流行に合わせた数種類の品種のぶどうがありますが、休憩所の庭先には見事なりザマト（コーカサス地方の品種でヨーロッパ系）が見事な枝ぶりで。



地下水にEM活性液を混入。スプリンクラーで散布



プールから釣り堀場の池はEMで浄化。排水も環境を浄化するのに役立ちます。



巨峰の種を均一に入れるのに重要な花前の房づくり。皆さん真剣に作業をしていました。

【活動紹介】

2代目の中根賢（まさる）さん（65歳）はぶどう栽培は45年以上のベテランで、現在は3代目の中根伸宏さんが栽培の中心。マルタ園へのEM導入は、三河湾浄化市民塾の篠原さんに、灌水用の池が造成工事が原因で汚れたため、なんとかしたいと相談した事がきっかけでした。EM活性液を池に投入後、約1週間程で、茶色だった水がきれいな緑に変わったのを見て、EMは効果があると思ったそうです。

3代目の伸宏さんは、不耕起・草生栽培を目指して、自然にもっとも近い栽培を目指しています。園内は小さな生き物がいっぱい、豊かな生態系があります。

【EM施用】

①地下水を利用して、全部の園地にスプリンクラーを設置。地下水をくみ上げるポンプに、EM活性液を定量混入させているので、灌水時には必ずEM活性液を1000倍希釈で散布。50リットルタンクのEM活性液を10本以上使用。またSS（散布用乗用車）でもEM活性液を散布。

②園内にある、児童のためのプールの水にEM活性液を投入。汚れが付着せずに、落ちやすいので、清掃も簡単です。プールの水は、釣り堀用の池に排水されるので、プールに投入されたEM活性液が排水によって、ため池に入ります。池の水が排水される場所にはEMセラミックスを入れています。

③堆肥へのEM活性液の施用。

【EMの効果】

花芽の状態が良く、花が柔らかい。糖度も高めで美味しいとりピーターのお客様が増えています。

事業主体

マルタ園 2代目 中根賢（まさる）、3代目 中根伸宏（のぶひろ）

・観光農園 観光のお申込みは下記FAX

愛知県岡崎市駒立町クリギ 55 番地

TEL：0564-45-7515 FAX：0564-45-7519（ぶどう園）

